

## 第3回 吉野町子ども・子育て会議 会議要旨

■日時： 平成26年5月21日（水）PM7:00～9:00

■場所： 町中央公民館2階 第3・4研修室

■出席者：

	氏名	所属・役職名等
1	池田 宗士郎	吉野町連合PTA代表（役員）
2	石田 裕子	奈良県佐保短期大学地域こども学科 准教授
3	戌亥 一男	吉野町民生児童委員協議会代表（会長）
4	上田 正行	吉野町区長連合会代表（副会長）
5	大石 さゆり	公募委員
6	大北 司	わかば幼稚園保護者（代表）
7	小泉 梓	吉野町議会議員（文教厚生委員長）
8	中東 郁雄	小中学校長代表（吉野中学校長）
9	中前 照美	わかば幼稚園長
10	中村 久己子	吉野保育所長・吉野幼稚園長
11	林 豊子	公募委員
12	南 雅樹	吉野保育所保護者（代表）
13	和田 公子	奈良佐保短期大学地域こども学科 客員教授

【欠席】 下中委員

■配付資料

- ・吉野町子ども・子育て会議 次第
- ・資料1 吉野町子ども・子育て会議委員名簿
- ・資料2 ニーズ調査結果から見える町の現状と課題
- ・資料3 吉野町子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査 結果報告書
- ・資料4 ニーズ調査（自由記述）での町施策等に関するご意見のまとめ
- ・資料5 ワーキンググループ実施報告
- ・資料6 吉野町子ども・子育て支援事業計画 骨子案のイメージ
- ・資料7 （仮称）吉野町子ども・子育て支援事業計画の基本理念
- ・資料8 なるほどBOOK すくすくジャパン！
- ・資料9 認定こども園法の改正について
- ・資料10 平成26年度吉野町保育所・幼稚園保育料一覧表

## 1. 開会

## 2. 出席委員数報告

## 3. 会長挨拶

委員の皆さま、こんばんは。前は寒い時にこちらに来させていただいたように思いますが、吉野町の桜も一度も見たことがないので一度と思いつつ、すっかりその桜も散って、今は本当に目にまぶしいぐらいの青葉となりました。この季節も実は私は大好きです。

先週の土曜日、日曜日に保育学会という学会があり、出席いたしました。子ども・子育て委員が全国で 27 年度の実施に向けて動いています。吉野町だけでなく、県、市町村を越えて子どものためにどんな施策が一番いいのだろうかという話し合いがあちこちで持たれています。その中でいくつか印象に残った点がありました。一つは、私も含めて委員の皆さんが公私の枠を越えて、それぞれの個人の利害を越えて、子どもの最善の利益をどこに求めたらいいんだろうという様な話し合いになるべきではないかということが一点。

もう一点は、それぞれの市町村の特徴があります。吉野町なら吉野町の特徴があります。同じ奈良県であっても、奈良市と同じように施策が進むわけではありません。その町なり市町村なりの特徴と大事にしたいこと。それから、ポリシーやコンセプト、そんなものを意識の中で確立させた上で、この子ども・子育て会議の中で論議が進めばいいなと思います。どうぞよろしくをお願いします。

## 4. 議事

(会長)

議事に入ります前に、会議の会議録について署名委員を指名させていただきます。順番に回らせていただきますので、よろしくをお願いします。今回は南委員と池田委員にお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

### 1) ニーズ調査最終報告

(事務局説明)

### 【質疑】

(会長)

膨大な資料、アンケート調査の中から課題なり現状なりをまとめていただきました。事務局の説明を受けて、ご意見、ご質問はございませんか。多数意見、少数意見に関わらず忌憚のないご意見をちょうだいできたらと思います。どうぞよろしくをお願いします。

(委員)

公園、遊び場についての意見が多く、遊び場が欲しいという意見が多くあります。

(会長)

前回のアンケート調査結果でも同様の意見が多くありました。そのことについては町でも検討していただけるかと思いますが、財政等のことがありますので、公園の中身については別の機会に、本当にできないのか、お金がない中でできる方法があるのか等もう少しご意見をいただく必要があると思います。子どもの安全な遊び場のニーズが非常に高いということは自由記述の中にも表れていますので、皆さんと一緒に検討していきたいと思えます。

では、続きまして2) ワーキンググループ報告事項についてです。現在、ワーキンググループで実際に聞き取りをしようというところで終わっています。その後について、それぞれのワーキンググループの調査をしていただいた方も含めてご報告をいただけたらと思います。よろしくお願いします。

## 2) ワーキンググループ報告事項

(説明)

**【質疑】**

(会長)

お二人の委員の方から、経緯や問題点、町への要望も含めて詳しくご報告いただきました。ただいまの説明について、ご意見、ご質問等ございましたらご発言願います。とても丁寧にご報告いたしましたので、あらためて質問はないようですけれども、ワーキンググループで聞き取り調査をしていただいた方から感想、提案をいただいています。その件については、事務局の方で具体的にどのようなことができるのかお考えいただいた上でフィードバックしていただけたらと思います。お二人の委員の方、ご報告ありがとうございました。

続きまして、議事3) 子ども・子育て支援事業計画骨子案について事務局よりご報告願います。

## 3) 子ども・子育て支援事業計画骨子案について

(説明)

## 【質疑】

(会長)

流れを説明いただきましたが、とても複雑なため、理解しつつお話を聞くのが難しいなと思いながら聞かせていただきました。まだまだよく分からないところもおありかと思いますが、今の説明の中で詳しく説明してほしいというところはございませんか。

あと1時間の中で、皆さんから基本理念についてお聞きしたいと思っています。資料7の中に案としてさまざまに出していただいています。基本目標として、今は3つを案として出していただいているけれども、いくつもあってもいいということです。数の問題ではなく、言葉として腑に落ちる、もしくは吉野町にぴったり、今後吉野町の目指す方向として子どもの育つ吉野町、町長がかかげられる日本一の子育てに優しいまちという、そのニーズに応えたまちづくりをしていくという基本的な理念をどの言葉で、どんなふうにしていくのがいいのだろうか。今、一つに決めるのではなく、さまざまなキーワードのようなものをご意見としていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。今、掲げている中には、楽しくとか、安心とか、心豊かに、といった言葉がありますが、この言葉はとてもきれいですが、具体的に何が心豊かで、何が安心でというところが少し見えにくいのかなと印象的には思います。それをもう少し具体的な言葉で置き換えることができないだろうかと個人的に思いながら聞いていました。このざっくりとしたというのか、具体的でなくても、目指すところの理念が共有できていればいいかなとも思うのですが。それぞれの委員の先生方、お一人ずつ何かしらの声を出していただくということでよろしいでしょうか。

(委員)

私は3ページにも書いてありましたが、「楽しい」という言葉が非常に気になります。子育ては、楽というか、うれしいことばかりなのかなと思います。子育てにはやはり苦勞がつきまといます。365日、24時間休む暇はありません。この楽しいという言葉をもう少し当事者というか、本当の親の気持ちになって違う言葉に変えられたらなということを考えています。なかなかその言葉が私には思い浮かびませんが、親の目線、そして子どもの目線に立って楽しいとはどういうことなのかということで、一度考えてみてもいいのかなと思っています。以上です。

(委員)

今、大事にしたいキーワードというところで話が進んでいるかと思いますが、普段、子どもたちを見ていると、楽しく、安心、心豊かにということを感じるような子であってほしいという願っています。心豊かにということ考えた時に、つながりとか関わりといったことも大事なのかなと思います。ですから、そういった言葉が盛り込まれていれば、表現することができるのではないかという気がしています。

(委員)

今回初めて参加させていただきましたので、本当に難しいことだなと思いながら聞かせてもらってました。春から色々な会議に参加させていただく中で、皆さんがおっしゃるのが、子どもの最善の利益ということです。私は教育に携わっているものですが、何があってもそこを守っていかなければならないのが私たちの使命だということを色々な方がおっしゃいます。ただ、子どもの最善の利益ということを、どのような言葉で具体的に表したらいいのか私は見つけられていませんが、その最善の利益というものが何なのかということをもう少し具体的に表されたらいいのかなと考えています。

(委員)

とても難しいことですが、私はこの文面を読んでいて、地域で子育ての不安を抱えた者が孤立することが無いようにという内容があればいいと思います。

子育てが不安なお母さん、ひとり親家庭がどんどん増えてきています。田舎というのは、そういうことがないと思い込んでいた自分がいて、楽しくとか、子どもを安心して育てるところに至っていない。それを支えなければいけないわれわれが、どのようにしたらよいか、私としてはなかなか言葉が出てこないのが現状です。

吉野の地の利を生かして、自然や環境といった言葉をもう少し入れてほしいなという思いもありますし、お母さんはたくましくて、生きる力を持った子どもを育てなければならぬという思いもあります。吉野でずっと暮らそうと思ったら、学校も高校、大学ぐらいになると出て行ってしまうという現状がありますが、吉野にいてほしいな、帰ってきてほしいなとみんな思っています。やはり人口が減る中、吉野で生きる力を持った子どもたちが育ってほしいなと思っています。

(委員)

私は父親ですが、教育には母親が多くかかわることが多いのですが、父親としては、やはり子どもは遊ぶことで教えられることが多々あると思います。先日、遊びに行ったのですが、広い芝生があって、そこで家族が遊んでいました。遊具で遊ぶのもいいのですが、家族で遊ぶという場で、子どもが親から学ぶことができる場所ができたらなと感じています。

(委員)

基本理念は主として大事なことだと思います。子どもを安心して産み、楽しく育てることのできるまちづくりとありますが、吉野町では子どもを産むことができませんね。どこかで産んできて、吉野で子育てしてくださいというふうに私には見えてしまいます。楽しく、産み、育てるといのは語呂がいいので、色々なところでこの言葉が出てくると感じています。子育て支援日本一を目指しているので、看板になる基本理念は、吉野らしいとい

うか、子育てをしている保護者、吉野で学んでいる子どもたちに対する吉野町としてのメッセージがもっと入っていくべきだと個人的には思っています。かといってどんなものかいいかといわれたら、今すぐぱっとは言えませんが、一番看板としてトップに出てくる言葉なので、そこはもう少し皆さんと考えていくのか、また行政の方から案として出しているだけなのか分かりませんが、もうちょっと吉野らしい、吉野で子育てを頑張っている保護者さんと学んでくれている子どもたちに対する吉野町のメッセージを出してほしいと個人的には思いました。

(委員)

僕もそのように思います。基本理念をキャッチフレーズに、保護者に見せるのであれば、いいようなことを謳っていると思われるだけかなと思います。普段は子どもたちも楽しく学校や幼稚園に行ったりしていますので、幼稚園、小学校については、ものすごく子どもたちに対して一所懸命していただいているとは思っています。こういうことを謳うのであれば、一番ニーズの高い子どもの遊び場を充実させていかないと、どこで楽しく育てることができるのかなと保護者の方は思うと思います。隣の下市町には公園ができました。川上村には、生活に対する支援に対しても、住宅に対する支援にしても、住民を外に出さないようにしようという施策がものすごくあると思います。用事があるって診療所に行った時も、ものすごく子どもがあふれかえっている状態で、何か活気があるなと思いました。吉野町にはそういうところがあまりないなと思います。それから、施設的なもの、子ども用のトイレや、おむつを替える台もないということも書かれていましたし、細かいことを皆さん結構感じているのだなと思いました。

(委員)

吉野町の老人の方が長寿といわれるということもあって、老若男女問わず、健康に関してすごく関心が高いと思います。私は子どもに特化していえば、健やかとか健全とか、こういった言葉が入ればもっといいのではないかと思います。

(委員)

安心、楽しく育てるとありますが、そうするためには余裕が必要だと思います。だからこの文言の中に「余裕」という言葉をぜひ入れていただきたいと思います。余裕というと、時間の余裕、それから健康でなければ余裕はない。一番大きいのはお金の余裕です。これがそろって初めて余裕ができてくるのではないかと思います。以上が、この文言を見て思ったことです。

(委員)

私の意見は理念からちょっと外れるかもしれませんが。この会議に出席する際に、児童委

員に吉野町において何か気にかかることはありませんかと電話したところ、比較のおだやかに過ごしているということでしたので、吉野町は安心だなと思っています。近隣市には児童委員がしょっちゅう行かなければならないということも聞いていますが、吉野町ではそういうことがないということで、喜んでいる次第です。

(委員)

私の意見は、先ほどの意見とよく似ていますが、みんなで支えるという言葉がいいかなと思いました。ワーキンググループの話を読むと、幼稚園の先生も保育所の先生も、にこにこの先生も何とかしたいと思ってきています。子どものためにということを皆さん思われているけれども、それを知らないという問題もあります。人間関係につながりがないということで、遠慮も結構されているようです。人に遠慮するから預けられないと。だけど、支えるからというメッセージがあれば、もしかしたら近所の人に預けられるような環境が育つのではないかと少し思いました。

お話を聞くと、吉野町で固まっているわけではなくて、色々グループがあるのでしょいか。町一丸という感じがしないので、もしかしたら支えるという言葉が的外れかもしれませんが、外から見ると、町内で一致団結しています。そして子どもだけではなくて、今度は中学生、高校生がおじいちゃん、おばあちゃんの家に行って、元気ですかという声かけができるとか、お互いに支えあえるような社会ができればいいのではないかと思います。

(会長)

吉野町が現在、置かれている現状の中には、決してバラ色ということばかりではなく、たくさん不安な課題があるという中で、少し慎重なご意見や厳しいご意見も出てきたように思います。近隣市との比較の話や、高校、大学で出て行ってしまっただけで帰ってこないということもあり、囲い込みということではありませんが、やっぱり吉野町を愛して、吉野町が好きと思って、吉野町で育ってほしい、生活してほしいという思いのようなものが表れるような言葉が少しでも出せることができたなら、お話を聞きながら思っていました。

前次長さんとお話しする機会があり、異動されたのは、水流を使用した発電や太陽光、ディーゼルエンジン油の開発をする部署ですとおっしゃっていました。私が、水は豊富ですものねと言ったら、そうですねという話を聞かせていただいて、吉野町のいいところはもっと地元にいるからこそ見えないことだとか、気付かないことがあるのではないかなと。本当に不便だからこそ育つ何かとか、地域と地域が離れているからこそ、何かしらのものがあらためてしないと駄目なので、そこに人とのつながりが生まれてくると。先ほどワーキンググループの調査報告にも、図書館（文庫）も充実しているという話がありました。にこにこランドがとても充実している、素晴らしい取組をさせていただいているということ

も聞かせていただきました。

実は、私ごとになります、今年度から本学の中に、奈良市の委託を受けた子育て支援センター長を引き受けさせていただいていますが、奈良市の方からもじっと待ちの姿勢では駄目だと。外に出ていけということで、月2回は外に出ていって出張広場を開けといわれました。そこで、今年度は月に2回、3回は児童館や公民館に私たちスタッフが出ていこうと思っています。アクティブに動くことが必要になってくるかなと思っていますが、それにはエネルギーが必要です。そのエネルギーを誰が支えるのか。先ほど委員からもお話がありましたが、支えるというのは、親を支える、子どもを支える、お年寄りを支えるだけではなくて、アクティブに動いてくださる方たち、先生たちも保護者の役員さんたちも民生委員さんたちも、さまざまなところでご活躍をいただいている人たちを支えるというのも支えるということだと思います。その中で初めてゆとりも生まれてくるのではないかとことも思いました。それぞれの本当に熱い思いと、これからの吉野町の発展を願う、そういう思いの中に厳しいご意見もいただいたと思います。

私のところでまとめることはできませんので、今後、事務局の方でこの辺をもう少し具体的にまとめていただけますか。今、ざっと意見を言っていただきましたが、事務局の方からここの辺りについてもうちょっと意見を聞きたいとか、この辺をもうちょっと皆さんのご意見をまとめておきたいというようなことはございますか。

(事務局)

皆さまから貴重な意見をいただき、ありがとうございます。お話をうかがいながら、難しいことをお願いしているなと思っているしだいですが。ただ、もう少し自由意見、自由記述があったかと思いますが、それについて皆さんの気にかかることがありましたら、教えていただいて、そういったものを盛り込んだものを、少しでも計画の中に入れさせていただけたらと思っているところです。気付いたことがありましたら教えていただけたらと思います。

(会長)

実は、今回自由記述をあらためて一覧表にして出させていただきました。せっかく出させていただきましたので、この自由記述の中からこの辺を少し取り上げたらいいのではないかとこともお出しいただきたいと思います。基本理念は、子どもの立場に立って、どのようなキーワードが必要だろうかということが前に出てくればいいと思います。いかがでしょうか。

私の方から聞かせていただいているいいでしょうか。公園が欲しいという意見が多く出ていますが、先ほど委員さんの方から、公園もいいけれども、それぞれとても充実している施設があると。そこに足を向けていただくようなことがあれば、公園も必要だけれども、そこで走ったり、遊んだりできるのではないかとご意見もありました。その辺はどうで



しょうか。公園との違いというのか。公園が欲しいというのと、にこにこランド等の施設だとか、そういう取組みとはちょっと違うのでしょうか。

(委員)

にこにこランドは対象のお子さんが未就園児ですので、小学校の方々がアンケートで答えられている公園とはまた違ったニュアンスになると思います。学校の方でも、小学校の放課後の開放をしてくださったりしていますが、学校近隣の児童は自転車や徒歩でも行けますが、なにぶんバスで通っている児童の方が大半なので、学校に行くにも親が送り迎えをしないといけない。そこまでしてでも子どもを遊ばせなければいけない。土日になると、親が付き添って他の市町村の公園に連れていかないと、近くの公園では充実していないと。あと、聞き取りの中であったのは、土曜日などでも、なにぶんお年寄りの方の割合が多いので、ゲートボールやグランドゴルフをしている。だから公園で土日にサッカーができない。そういう不便なところもあるとおっしゃっていました。

(会長)

具体的なところが見えてきたように思います。それからもう一つは、近隣に行くにしても、親が付き添って車で行かれているんですね。

(委員)

土日の小学校の開放に関しては、自動車で送り迎えしている方は皆無に等しいと思います。

(会長)

他の市町村の公園に行かれている方は、車で行かれているんですね。

(委員)

吉野町を取りまく他の市町村には大型の施設があります。そちらの方に皆さん出かけるということです。

(会長)

要するに、車で家族で出掛けるのに価値のある公園が吉野町にはないと。

(委員)

そうですね。これが挙がってくる理由の一つに、今まで吉野町には大型プールがありました。逆に他の市町村から吉野のプールに向いてまで来るとい方が多かったのですが、施設の運営、管理の費用がなくなって閉鎖されたので、その代わりに何か欲しいという

希望が町の皆さんにはあるのかと私なりに思いました。

(会長)

せつかくの施設や図書館（文庫）があるにもかかわらず、そういうニーズがあるという矛盾していることが出てきていたので、あるのだったら広報すれば、情報を流せばいいのかなとも思ったのですが、情報として流すとともに、さらに何かしらのものがあればいいということだと思います。単につくれればいいという問題ではないと思いますが、もう少し具体的に、このアンケート自由記述の中に、公園以外のことで何かしら気になる項目などございますか。

(委員)

町内に文具を購入できるお店がないと書いてありますが、これがよく分からないのですが。僕の通っていた小学校の裏には文房具屋があったと思います。中学校には購買はありませんか。中学校の坂を上がっていたところにありましたね。

(事務局)

中学校には購買はないですね。

(委員)

個人商店はあったけれども、購買的なものがないということですか。文具も買えないようなまちかと思って心配しました。

(委員)

おそらく粘土とか、ちょっとマニアックなものではないでしょうか。

(会長)

コンビニはありますか？

(委員)

コンビニはあります。

(委員)

ただ、学校指定の帽子だとか上靴になると、やはり大淀町なり桜井市まで出て行かないと。

(委員)

僕もこの前、子どもの制服を買うのにジャスコに行ったんですが、こんなところで買えるんだと思ってびっくりしました。指定のものが吉野町で買えるようになるといいと思います。すべてよそのまちで成り立っているように思えます。

(委員)

町内のごみ袋がコンビニで買えるのと同じように、コンビニで指定のものが買えるようになるといいと思います。

(会長)

最初に妊婦さんのワーキンググループでのお話があったように、町の役所の横断的な取組が教育委員会だけではなく、建築の方、財政の方と横断的な取組の必要なところが、たくさんあると思います。その辺を私たち委員の方たちの意見を集約して、これはと。たくさんあることを一度にはできませんが、少しでも前進するものがあれば、委員の先生方もやった感ができるかなと思います。今のところ、少し絵に描いた餅のような。どうにもならないところを堂々巡りしているような、そんな気がします。たしかに基本理念で、キーワードとしていい言葉がたくさんありますが、じゃあ、それを具体的に取り組むとしたらどうということという、次の課題になるかと思いますが、そのことも認知しつつキーワードがあればとてもいいなと思います。ほかに何か気になることはありませんか。

(委員)

もう少し子ども自身が育つ、子ども自身でできることがあると思います。自分で通える手段が必要であるとか、子ども同士がたまる場所であるとか。どうしても今は、子育てというと親。それから保育所の責任であるとか、幼稚園でなんとかしてほしいとお互いが思っていたり、家庭でなんとかするべきだという意見もありますが、少々遠くても子どもが自分で歩いていくということは考えられないものなのではないでしょうか。というのは、私は大学時代に教育実習で過疎地の小学校に行った時に、小学校1年生の子が、「僕は毎日、8キロ歩いて来ます。だから足がとても丈夫です」というような自己紹介をしたのがとても心に残っています。親も心配ですが、自分で歩くということを少々の不便を体験しながらも、歩くということがあってもいいんじゃないかなと思ったりもします。それぞれが抱え込みすぎて、ものすごくしんどいというところはあるかなとちょっと思いました。

今、どうしても不安があると思いますが、犯罪件数も昔よりも今の方が多いということではなくて、報道される取り扱いの大きさと、すごくセンセーショナルに扱われますが、もう少し子どもを信頼してみるのもいいのかなと思います。子ども自身の力で学校も遠くても、学校で遊んで、そのまま5時になったらみんな帰る。冬になったらみんな帰るということをしてもいいのかなと思います。

(委員)

私の経験ですが、去年1年間五條市の小学校に勤務していて、その小学校は、五百数名の児童のほとんど100パーセントに近い子どもたちが徒歩で通学してきます。中には40分以上かけて、雨の日も雪の日も、長靴の中に水をいっぱいためながら来ている子もいました。その子たちと給食を食べながら会話をしている時に、「今日は〇〇くんの家に行くねん」と言っていました。その時に「お母さん働いてるやん、どうやって行くの」と聞いたら、「なんでよ、40分も歩いているのに歩いていくんやんか」と言われた時に、驚きました。そこですごく自分がやっている子育てとのギャップを感じました。

これは吉野町の町風でもあると思いますが、吉野町の小学校、中学校というのは、ほとんどがバス通学で、歩いている子ども、自転車に乗っている子どもはあまり見かけたことがないと思います。私自身でいうと、昭和40年代の子育てをしている感じですが、小学校1年生になったから自分で習字に行っておいで、と橋を渡らせて川向かいの習字の先生のところに行かせました。すると、子どもが帰ってくるまでに何件もの電話がかかってきて、「〇〇ちゃん、一人で歩いてるで」と。その後、近所で噂になったわけです。危ないと。そこら中のお年寄りの方々から、「あんたところの子ども、一人で歩いてたで」とか「あんなことして誰かにさらわれたらどうするの、あかんで」と言われて、私としてはびっくりしました。それと同時に、何人もの方の見守りがあったということにとっても安心感を覚えて、その後も一人で行かせています。

初めての会議時に委員さんから、遊び場がないという意見に対して、「奈良市に住んでいる人間からすると、こんなに自然があって野山を駆け回れる自然があるのに何を言っているのか分からない」とおっしゃったのがすごく印象的で、自治体も親も、子どもを必ずずっと目で見張っていないといけないという、そういう風潮にあるのではないかと個人的に思いました。これを言うと、何かあったらどうしてくれるんだと言われても、それはどうしようもできませんが。実際、中学校に行くのに初めて自転車に乗せたというお子さんもおられますし、じゃあ、いつから自転車に乗せたらいいのと。でも、危ないし。歩道がないからと。そういうことを言い出すと、ずっと子どもを見守っていかないといけない。雨が降ると中学校の前にずらっと自動車と並ぶというのも、私が小学校の時は雨が降ってもカッパを着て行けと親には言われていましたし、その時代と今を同じにしていけないと言われるのは分かりますが、今の委員の話聞いて、私もまったく同感だなという部分は少なからずあります。

(会長)

色々な意見を出していただきました。先ほども紹介させていただきましたが、子育て支援センターをあずからせていただいています。その中で、私が子育て支援とは何だろうということを、支援センターが立ち上がった5年前、相当論議をいたしました。結局は、子

育て支援というのは、子どもが楽しく遊べる場所を提供するのではなく、お母さんが子育てをする力を培っていただく場所だというふうに思っています。

それから、先ほど一人で歩かせるのはどうかというのと同じで、お母さんに来ていただいて、こうしますよ、ああしますよ、こんなことができるようになりました。こんなこともお手伝いしてあげましょうと手取り足取りお母さんを導くのではなく、お母さんが気付いて、ああ、そうや、こんなことしたから私の子、こんなふうになったんや。ちょっとこんなことしてこなかったわ。じゃあ、今日はやってみましょうとお母さんが気付けるような、そういう場にしたいというふうに思っています。

歩道がないから自転車では行かないというお話が出ましたが、私は大和郡山市在住ですが、城下町ですので、本当に狭い路地をびゅんびゅんと車が通っている中を子どもたちは自転車で通学していました。それは危ないといえれば危ないのですが、みんながしているので当然だと思っていました。雨の日に中学校まで迎えにいったことは一回もありませんし、車がずらっと並ぶことも一度もありません。先ほど、「危ないよ」とあちこちからお電話がかかってきたという話がありましたが、それも実はありません。そんなこともないです。じゃあ、それがあるといことは、吉野町の素晴らしい環境じゃないのかなど。先ほど委員の方から支えるという言葉はどうだろう？とか、ゆとりというのはどうだろう？とおっしゃってくれました。少しおせっかいなおじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃるゆとりというのが、それもととても素敵なことだと思います。

冒頭で、それぞれの市町村に見合った、それぞれの特徴なりに見合った子ども子育て会議である必要がある。それは最善の子どもの利益であると。最善の子どもの利益のとらえ方みたいなものが、「子どもに危ないことはさせない、子どもには安心して豊かな環境でしか育てたら駄目だ」ということだけではないようなことも、お話を聞いていて感じました。

反論もおありかなとは思いますが、おっしゃるように、だからといって事故に遭ったらどうするんだと言われたら、私もそんな責任は負えませんが、たくましくというご意見も出ましたね。健康で、心身共にたくましくとなれば、壁は乗り越えないとたくましくはならない。その壁がなんであるかはそれぞれのご家庭の中で乗り越える壁を、それぞれにおつくりいただいているのではないかと思います。

10分前になりました。ようやく佳境に入ってきたかと思えます。夜も遅くにもなりますし、まだ議題が残っていますので、次に進ませていただきます。では、今のところで少し基本理念、難しいかと思えますが、事務局のほうで少し言葉をならべていただき案をつけますでしょうか。

それでは議事4) 子ども・子育て支援新制度について説明願います。

議事) 子ども・子育て支援新制度について  
(事務局説明)

【質疑】

(会長)

今、非常に関心の高い話で最後となりました。この件については、少し町の方と、また財政の方ともですが、公定価格などの国の基準が定まるのがひと月ほど遅れましたので、今のところ、今ご説明いただいた以上のことはまだ言えないと思います。言ったらまたややこしく誤解を生むことになると思います。けれども、町民の皆さんの関心事であると思います。とりあえず6月に国の基準が出るまで、少し静観せざるを得ないというところになります。それでは、今日の議事がすべて終わりました。5分近く伸びてしまいました。申しわけありません。ほかに何か事務局の方からご連絡はございますか。

(事務局)

連絡事項

(会長)

遅くなりましたが、終わらせていただきます。終わりのあいさつを池田副会長にお願いします。

(池田副会長)

長時間にわたり、大変中身の濃く、資料もたくさんありました。帰っていただいてからゆっくり読んでいただき、中身をじっくり分かっていただけたらと思います。

先日、新聞に2040年の人口推移といますか、統計が出ていました。皆さんもご存じかと思います。吉野町はかなり低い位置にあります。それを知っておられる方は、かなりたくさんおられるのではないかと考えています。その中で、このままではいけないなという思いは、皆さん持っておられると思います。どうか、それがいいきっかけになると私は思いました。この冊子の1ページ目の裏に、すべての子どもたちが笑顔で成長していくために、すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられるために、というすごくよいキャッチフレーズという感じで終わっていました。皆さん、委員さんの力を集約していただき、ワースト何位という推移の結果を覆すようなことになって、日本一の子育て支援というまちをつくっていただけるよう、またいい案を出していただき、よりよい会議にしていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

以 上